

もも たらう
桃太郎

一

5 むかし、むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんと
が、^す住んでいました。

ところが、^{なつ}夏のある日のことでした。おじいさんは山へシバ
かりに出かけました。

「行ってらっしゃい。」

10 おばあさんは、おじいさんを^{おく}送りだすと、「どれ、どれ、わ
たしは、川へせんたくに行きましょう。」と、たらいをかかえ
て川へせんたくに出かけました。

「ぎぶぎぶ、ぎぶぎぶ。」

おばあさんは、せんたくをしました。すこしすると、^{かわかみ}川上か
ら、^{なが}流れてくるものがありました。

15 「はて、なんだろう。」

おばあさんは、せんたくをやめて、^{あたま}頭をかしげて^{かんが}考えまし
た。まるいものです。スイカぐらいの大きさです。白くて、
青くて、うす赤です。^{もも}桃にしては大きいし、ウリにしてはま
んまるだし。と、もうそれは見えるところにやってきました。

20 それは大きな大きな桃だったのです。

「まあ、めずらしい桃。なんて大きな、おいしそうな桃。い

5

シバかり=Reisig Sammeln

どれ、どれ=also, nun

10

15

頭をかしげる=den Kopf neigen

うす赤=hellrot ウリ=Melone

20

いえ、きれいで、そして美しい桃。」

おばあさんが、そんなことを考えているうちに、桃はやがて手のとどくところへ流れてきました。

「さあ、きた。」

- 5 おばあさんはうれしくて、すぐ手をのばして、それをつかまえました。ところが、どうでしょう。それは、^{おも}重たくて、なかなか上にあがりません。^{りょうて}両手でだいて、
「どっこいしょっ。」

と、おばあさんはカを入れました。水から上へすこしあがつ

- 10 たと思うと、手がすべって、どぶーんと、下に^お落ちました。桃は水の^{そこ}底にしずんでしまいました。

「これはこまった。おいしいことをした。」

おばあさんがそういっていますと、また目の前に、桃がういてきました。

- 15 「あれ、ありがたや。こんどは、じょうずに^と取りましょう。さあ、桃^{かる}軽くなれ。軽くなれ。」

おばあさんは桃を手もとにかきよせ、しっかり^{りょうて}両手をかけました。

そして、

- 20 「どっこい、こらしよっ。こらしよっのどっこい、よいしよっ。」



かきよせる=zusammenscharren

そういう長いかけ^{こえ}声をして、やっと胸^{むね}の前にかかえあげました。それから、そばのたらいの上におろしました。そして、ながめました。まったくめずらしい桃^{もも}です。見たこともない桃です。聞いたこともない桃です。

5 「おじいさんといっしょに食べましょう。 5

きっと、もう今まで食べたこともないほどおいしい味^{あじ}にちがいない。」

おばあさんは思いました。

10 ニ 10

その晩^{ばん}のことです。

「帰りましたよ。」

と、おじいさんが、シバをいっぱい背^せおって帰ってきました。

「おつかれでしょう。」

15 おばあさんはすぐに桃のことはなしました。 15

「おじいさん、いいことがあるのですよ。早くこちらへ。」

おじいさんはにこにこして、シバをかたづけ、手^あを洗ってあがってきました。そして、茶^{ちや}の間^まにはいってみれば、そのまないたの上に、大きな桃がのっていました。

20 「や、りっぱな桃だ。日本一の桃だ。」 20

おじいさんがびっくりしていいました。

かけ声をする=hau ruck rufen かかえあげる=hochheben

シバ=Reisig

茶の間=Wohnzimmer

そして、片手^{かたて}にもう、ほうちょうを持っているおばあさんをとめました。

「待^まて、待て。すぐ食べるのはおいしいじゃないか」

それから、どれくらい長くふたりは桃をながめたでありましようか。桃をながめてはごはんを食べ、ごはんを食べては桃をながめました。ごはんがすんで、それをかたづけると、おばあさんがいいました。

「おじいさん、桃はまだですか、まだ食べるのはおいしいですか。」

10 「ふうん。」 10

おじいさんは、かんが^{かんが}えました。

「では、とにかくすこし味をみてることにしよう。ほんのちよっぴり。」

ちよっぴり=ein wenig (=すこし、ちょっと)

そこで、おばあさんは、ほうちょう^とを取りました。それから、
15 「まず、こうして。」 15

と、桃の頭^{あたま}に、そのほうちょうの刃^はをあてて、いいました。

「二つに切^きってと。」

ところが、ふしぎなことが起^{おこ}りました。

ほうちょうの刃を、ただ、そこにちょっとあてただけなのに、
20 桃が二つにわれました。いや、われたばかりではありません。 20
そこから、

「おぎゃあ、おぎゃあ、おぎゃあ。」

という声がおこりました。おじいさんとおばあさんふたりとも、もうたいへんなおどろきかたです。そこに、桃の中にひとりにんげんの人間あかの赤ちゃんがいたのです。

5 「おう、おう。」

おばあさんがいえば、

「いや、これは、ふしぎ。」

おじいさんがいいました。つづいて、「なんて、かわいい赤んぼうか。」

10 おばあさんがいいました。

「これは、まったくかみ神さまのさずかりものだぞ。」

おじいさんもいいました。

それから、ふたりはお湯ゆをわかして、赤んぼうにうぶ湯をつかわせました。うぶ着ぎというきものもつくって着せました。

15 また、赤飯せきはんをたいて、お祝いいわもしました。ふたりはうれしくてうれしくて、それはもうだいに、その赤んぼうをそだてました。名まえも、桃ももからう生まれたので、桃太郎ももたろうとつけました。

20 三

桃太郎は、ずんずんずんずん大きくなりました。かわいらし



5

10

さずかりもの=Geschenk

うぶ湯をつかわせる=ein Baby baden

うぶ着=Babybekleidung

15 赤飯=roter Reis (=mit roten Bohnen zusammen gekochter Reis, traditionelles Festtagsgericht)

20

いのは生まれたときからですが、とてもかしこくとても力持ちからもちにもなりました。どんな子どもだってかないません。いいえ、おとなだってかなわなくなりました。そしてまもなく、日本一の子どもになりました。もう鬼おにだだってかなわなくなったのです。

ある日のことです。桃太郎が、おじいさんおばあさんにいいました。

「おじいさん、おばあさん、ぼくが鬼が島へ鬼退治に行きます。おべんとうにきびだんごをつくってください。」

10 「それは、それは」

と、おじいさんおばあさんもびっくりいたしました。それでも、人をいじめたり、こまらせたりしている悪いわるものを退治するといふのですから、それをとめることはできません。

15 「それでは用心ようじんして、まちがないように行っていらっしやい。」

おじいさんおばあさんにいわれて、桃太郎は出しゅ発ぱつしました。右みぎの腰こしにはきびだんご、左ひだりの腰こしには太刀たち、背せ中なかには旗はたを立てておりました。旗はたには大きな字じで、「日本一の桃太郎」と、書いておりました。

20 うちを出て、すこし行くと、村むらへ出ました。すると、一匹ひきの大きな犬が、かけよってきました。

かないません=ihm (桃太郎) das Wasser nicht reichen

かなわない=かないません

鬼=Teufel

5

鬼が島=Insel Oni-ga-shima 鬼退治=Teufelsjagd

きびだんご=Hirsenkloß

10

退治する=verjagen, ausrotten



15

太刀=Schwert

20

「桃太郎さん、桃太郎さん。」

その犬がいました。

「なんだ。用事か。」

桃太郎がききました。

5 「いったい、どこへ行かれるのですか。」

「鬼が島へ鬼退治に行く。」

犬は、桃太郎の勇ましいすがたや元気なことばに感心してしまいました。そして、

「桃太郎さん、わたしもいっしょに、つれて行ってください。」

10 と、たのみました。

「よし。それでは、このきびだんごをやる。それを食べて、ついてこい。」

そうやって、桃太郎は腰のきびだんごを一つ取って犬にやりました。犬はそれを食べて、

15 「おいしいだんごですね。はじめてこんなおいしいものを食べました。ありがとうございました。」

そうやって、しっぽをふってついてきました。それから、しばらく行くと、こんどは山へはいりました。山へはいると、

「あっ、桃太郎さん」

20 そうよんで、出てきた者がありました。

一ぴきのサルでした。

5

勇ましい=tapfer 感心する=bewundern, beeindruckt sein

10



15

20

「なんだ。^{ようじ}用事か。」

桃太郎がいますと、

「いったいどこへ行かれますか。」

サルがききました。

5 「鬼が島へ鬼退治に行く。」

桃太郎がいますと、サルはすっかり^{かんしん}感心して、^{かお}顔をまっかにしていいました。

「わたしもいっしょにつれてってください。」

と、^{あたま}頭をさげてたのみました。

10 「よし、それでは、このきびだんごをやる。

これを食べてからついてこい。」

そこで、サルにもきびだんごをやりました。サルも、

「おいしい、おいしい。」

と、きびだんごを食べ、たいへん元気になって、桃太郎につ

15 いてきました。それから、またしばらく行くと、^{のほら}こんどは野原へ出ました。野原へ出ると、もう、

「桃太郎さん。」

と、よんで、^{そら}空を飛んでくるものがありました。見れば、それは^{いちわ}一羽のキジでした。

20 キジは、桃太郎の前に、空からおりて、

「桃太郎さん、いったい、どこへ行くのですか。」

5

10

15 野原=Feld, Wiese

キジ=Fasan

20



と、ききました。

「鬼が島へ鬼退治に行く。」

桃太郎がいました。キジは、すっかり感心して、ばたばた羽ばたきをすると、いました。

5 「桃太郎さん、わたしもいっしょにつれてってください。おねがいたします。」

「よし。」

桃太郎がいました。

「このきびだんごを食べて、元気をつけて、ついてこい。」

10 そして、腰のだんごを取ってやりました。

キジはそれを食べると、とても元気にまた空に飛び上がり、桃太郎の上を二度も三度も舞って、それからまた下におりました。

15 こうして、桃太郎は、犬、サル、キジと三人の者をつれて、いよいよ、鬼が島へ、いそいで出かけました。

四

桃太郎と、犬、サル、キジの三人は、鬼が島が遠くに見える海の岸にやってきました。そこで、桃太郎がいました。

20 「だれか舟をさがしてこい。」

「はい。」

羽ばたき=Flügel Schlag

5

10

15



サルとキジがそういいました。そして、サルは海の前の道^{みち}を走って行きました。キジは空^{そら}を飛^とんで行きました。まもなく帆^ほかけ舟^{ふね}がやってきました。帆柱^{ほばしら}の上には、キジがとまっていた。かじはサルがとっていました。サルはじょうずにかじをとって、桃太郎のすぐ前に舟をつけました。

5 「はい、桃太郎さん、どうぞ、お乗り^のください。」
そういって、おじぎをしました。そこで、桃太郎と犬とは、舟に乗りました。サルはまたじょうず^のに、かじをとって、舟を出発^{しゅっぱつ}させました。いよいよ鬼が島へ行くのです。海には大きな波^{なみ}が、たっていました。

10 風^{かぜ}も強^{つよ}くふいていました。しかし、サルがじょうずにかじをとりましたので、舟は、帆^ほいっぱい^のに風をうけて、まるで矢^やのように早く^{はし}走りました。キジは、あいかわらず、帆柱^{ほばしら}の上にとまっていた、右だ、左だと、サルにさしずしました。

15 犬は舟のへさき^{はた}に桃太郎の旗^{いっしん}を立てて、一心^{いっしん}に鬼が島をにらんでいました。桃太郎は舟のまんなか^ひにいて、日^ひの丸^{まる}の扇^{おうぎ}を開^{ひら}き、ゆっくり自分^{じぶん}をあおいでいました。
そのうち、だんだん鬼が島^{ちか}に近づいてきました。

20 五
鬼が島は岩^{いわ}ばかりの島^{しま}でした。黒^{くろ}い岩^{ちやいろ}。茶色^{ちやいろ}の岩^{はいいろ}。灰色^{はいいろ}の岩。

帆かけ舟=Segelboot

帆柱=Mast

かじ=Steuer

5 かじをとる=steuern



10

ほ=Segel 矢のように早く=schnell wie ein Pfeil

あいかわらず=nach wie vor

15 へさき=Bug 一心に=eifrig

日の丸=die japanische Flagge mit einem Sonnenball

20

5 　　そういう岩が岩の上にかさなって、^{たか}高い山になっていました。
 その岩をくりぬいて、中にほら^{あな}穴をつくって、鬼は住んでい
 ました。その鬼のほら穴へ行くのには、三つのトンネルがあ
 りました。そのトンネルには、それぞれ鉄^{てつ}の門^{もん}があつて、鉄
 のとびらがしまっていました。そのとびらの前^{あかおに}には、赤鬼^{しろ}、白
 鬼^{おに}、黒鬼^{くろおに}が、トラの皮^{かわ}のふんどし^{ふと}をしめて、太い金棒^{かなぼう}をつい
 て、番^{ばん}をしていました。
 ところで、桃太郎の舟は、サルがじょうずにかじをとって、
 その第一^{だいいちばん}番めの鉄の門の前につきました。すると、まず、犬
 10　　が島にとびあがって、大^{おお}声^{ごえ}でよびました。
 「おおい、鬼ども。日本一の桃太郎さん、今日、ただ今、こ
 の島へ、鬼を退治^{たいじ}においで^{わる}になつたぞう。悪い鬼ども、さあ、
 どうじゃ、一人のこらず^{こうさん}降参しろ。しないと、痛い目^{いた}にあう
 ぞ。」
 15　　それから、犬、サル、キジが、まず鉄門^{てつもん}のとびらの前^{すす}に進み
 ました。犬がまた大^{おお}声^{ごえ}でよびました。
 「開門^{かいもん}、開門。」
 これは、門^{もん}を開^{ひら}けということです。しかし、これを聞いた鬼
 どもは、
 20　　「それ、人間^{にんげん}がせめてきた。」
 と、とびらをかたくしめて、中^{かなぼう}で金棒^{かなぼう}を^なごとりごとりと鳴

くりぬく=aushölen

5　　赤鬼=Roter Teufel　白鬼=Weißer Teufel
 黒鬼=Schwarzer Teufel　トラの皮のふんどし=Lendentuch aus
 Tigerfell　金棒=Eisenkeule　番をする=bewachen

10

おいでになる=kommen (höflich)

一人のこらず=restlos, ohne Ausnahme　降参する=sich ergeben

痛い目にあう=schmerzliche Erfahrung machen

15

20

鳴らす=klingseln/tönen lassen

らしました。犬、サル、キジが、そこで、桃太郎にいいました。

「桃太郎さん、どういたしましょう。」

5 「せめこめ、せめこめ。まず、キジとサルで、せめ入り、このとびらを内から開け。」

桃太郎がいました。

「はい。」

10 まず、キジがばたばたたちあがって、門をこしました。そして、中にある鬼たちの顔をめがけて、空からおそいかかりました。目玉をねらってとびかかりました。

「いや、これはたまらん。これはたいへん。」

15 鬼どもは、つぎからつぎと、みんな両手で目をおさえて、下にしゃがんでしまいました。一人も鉄の棒をふりあげてくる者がありません。そこで、サルは、らくらくと門をのぼって行き、中のとびらを開けてよびました。

「さあ、桃太郎さん、おはいりください。」

桃太郎と犬は、中へとびこみ、用意の綱をだして、鬼どもをみんなしばってしまいました。

20 それから、つぎの第二の門にむかいました。そこでも犬が、「開門、開門。」

とよんで、鬼に降参をすすめました。降参しないことがわか

せめこめ=greift an! せめいる=hineinstürmen

5



10

つぎからつぎと=einer nach dem anderen

15

20

ると、キジとサルが、門を開け、さっきのように、また鬼どもをくくってしまいました。

それから、いよいよ、^{だいさん}第三の門、^{ほんじん}鬼の本陣にむかいました。

5 ここも、第一の門、第二の門と同じように、サルがわけなくとびらを開けました。しかし、その中には、^{たいしょう}鬼の大將がいて、キジ、サル、犬ではなかなか^{たいじ}退治できませんでした。この鬼の大將は大きな大きな^{あかおに}赤鬼で、^{かなぼう}金棒を^{すいしゃ}水車のようにふりまわしていました。それにあたれば、こっばみじん、^{にんげん}人間でも^{すな}砂のようになるというのですから、たいへんです。キジ、サル、
10 犬たち、その大將をとりまいて、わんわん、きいきい、ほえているばかりです。そこで、^{ちか}桃太郎が近くに^{かなぼう}あった鬼の金棒を手に取り、

「それでは、日本一のこの桃太郎が、あいてをしてやろう。」と、

15 「えいっ。」

^{ひとこえ}と、^{ごえ}一声かけ^{ぼう}声をかけ、その^{はや}棒をふりまわしました。その^{つよ}早さ、^ひ強さ、火が出るように見えました。

それから、桃太郎は、その棒をだんだん鬼の大將のほうに近づけました。「ばばんばん」と、^{おと}音がしました。鬼の大將の

20 金棒が、桃太郎の棒にあたって、こっばみじんにとんでいったのです。^{すな}砂や^{つち}土のようにこなごなになったのです。これを知

本陣=Hauptquartier

5 大將=Boss

こっばみじん=in tausend Stücke (zerbrechen)

10

あいてをする=jmdm Gesellschaft leisten

15

20

ると、鬼の大将がびっくりして、桃太郎の前に両手^{りょうて}をついて、すわりました。下に頭^{あたま}をつけていました。

「桃太郎さん、おゆるしてください。もう悪い^{わる}ことはいたしません。人間からとってきた宝物^{たからもの}はぜんぶお返し^{かえ}いたします。

5 この島^{しま}もたちのき、遠い^{とお}ところへまいります。遠いところで、いい鬼になってくらしめます。」

そこで、桃太郎は、キジ、サル、犬^{そうだん}に相談^{そうだん}しました。

「どうじゃ。」

三人がいました。

10 「おゆるしなさいませ。」

桃太郎は鬼をゆるしてやりました。そして、舟^{ふね}いっぱいにとりかえした宝物^{たからもの}をつんで、帆^ほをふくらまして帰ってきました。

サルがじょうずにかじをとり、キジが帆柱^{ほしら}の上にとまって、見はりをしました。犬はへさきに桃太郎の旗^{はた}を立て、桃太郎

15 は舟のまんなかで日^ひの丸^{まる}の扇^{おうぎ}を開いて、ゆっくり胸^{むね}をあおいでいました。

おじいさん、おばあさんが、桃太郎をむかえて、どんなに喜^{よろこ}んだことであらましよう。

めでたし、めでたし。

20

おゆるしてください=Bitte verzeihen Sie mir!

5 たちのく=verlassen まいる=gehen (höflich)



10 おゆるしなさいませ=Vergeben Sie ihm!

15



20